

道徳教育

どちらかというと道徳の授業は好きだった。

テーマは年間指導計画で、本は学校で決めていた。しかし、テーマによっては、新聞の記事等独自の資料を用いて授業を行っていた。

現在は、道徳教育推進教師が登場し、「今週はこの資料を使って下さい」ということで、画一的な授業を行っていた。楽なんだろうが、「おもしろくないなあ」という気持ちがあった。

道徳はどのように位置づけられ、指導したらよいのだろうか。先日、文部科学省 赤堀博行 教科調査官の講義（「平成 25 年度カリキュラム・マネジメント指導者養成研修」）を聴くことができたので、要点を整理した。

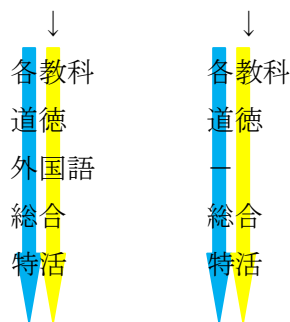
（以下講義の要旨）

○道徳

教育基本法の「人格の形成」を目指している。すごいことをしている。

教育課程の 1 つの領域

ちょっと寄り道 ※教育課程…小学校 5 領域、中学校 4 領域



※教育課題 …領域にまたがる

食育、環境、キャリア、人権 など

※教育計画…目標、内容、時数

（社会が）学校が道徳をやっていないように見ている

どの学校でも同じようにしてほしい

↓

教科化

○学校全体で行う

しかし、学校に実情がちがう だからカリキュラム・マネジメントが必要である

↓

どこで、どれだけ、どのように指導するかを学校で定めないといけない

また、学校の道徳目標は具体的でないといけない

例 「ふるさと」の歌を扱う音楽でも、道徳の目標の位置づけによって指導の仕方がちがってくる

○全体計画

- ・重点目標を定める
- ・学校活動全体ですべての目標が埋まらないかもしれないので、道徳の時間に「深化」、「統合」、「補充」すればよい

※特定の教科のために道徳を使ってはならない

